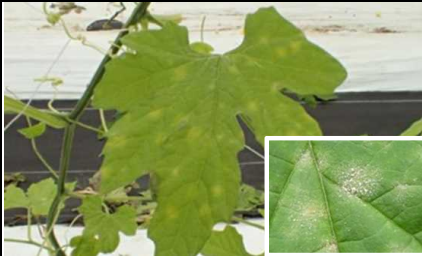
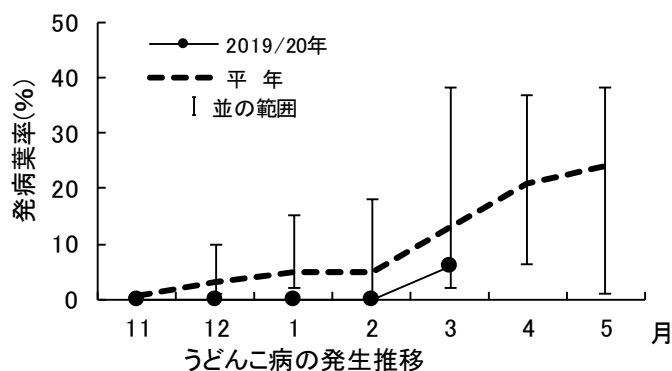


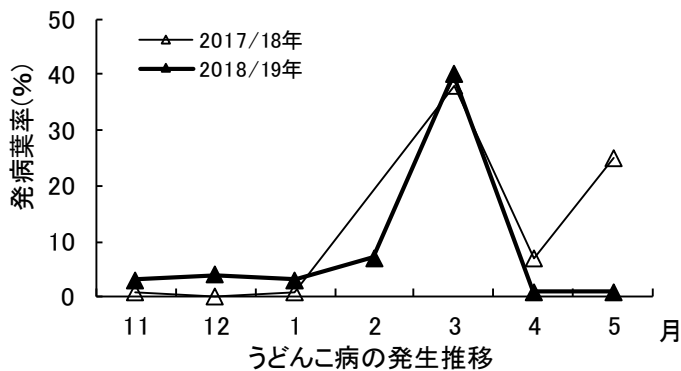
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
予報	4 月の発生量 (平年比)	並	
	3 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	3 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年間の推移



・発生ほ場率：60.0% (平年：88.0%)

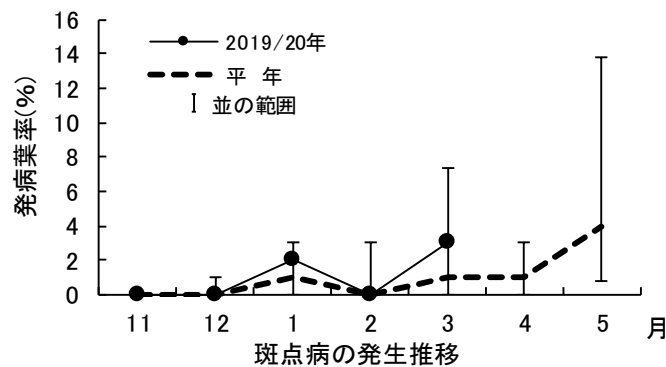
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

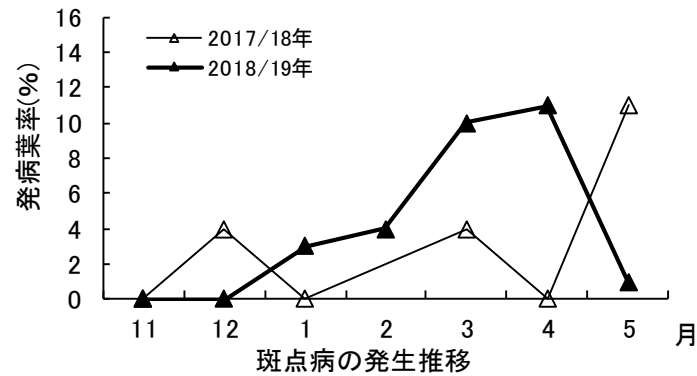
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	② 斑点病		
予報	4 月の発生量 (平年比)	並	
	3 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	3 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：60% (平年：56.0%)

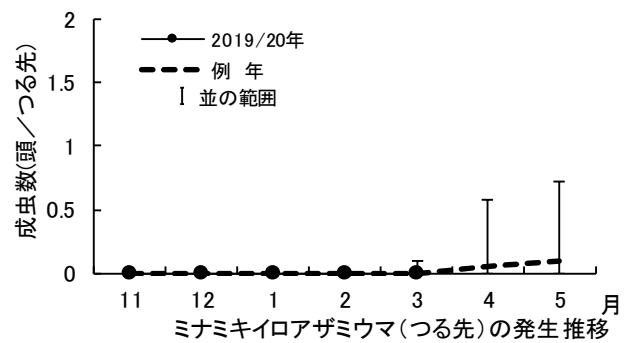
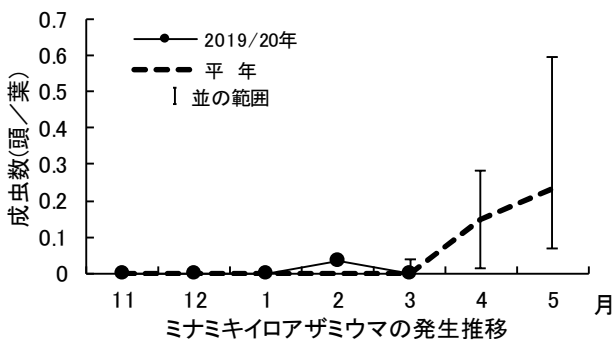
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

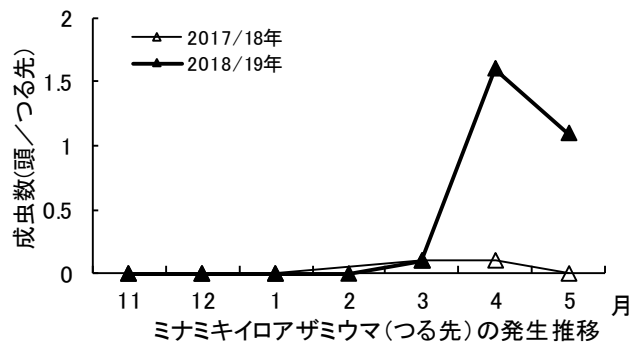
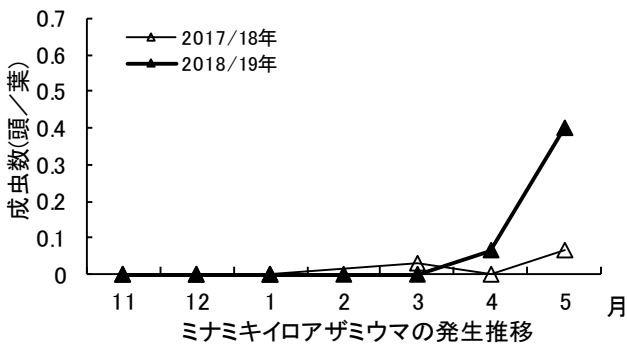
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
予報	4 月の発生量 (平年比)	並	
	3 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	3 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




・発生ほ場率：20.0% (平年：36.0%)

防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



果実の被害

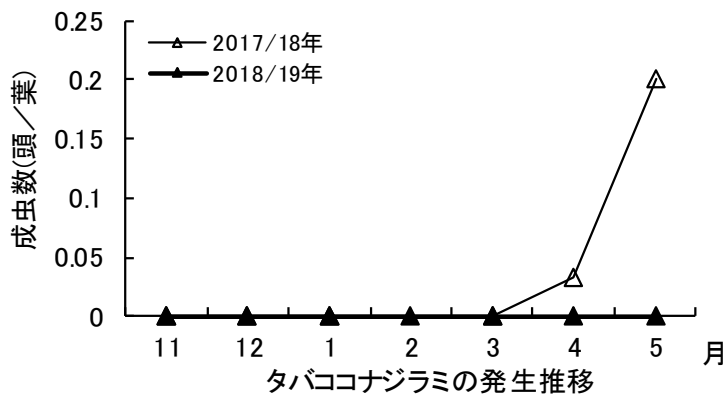
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
予報	4 月の発生量 (平年比)	並	
	3 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	3 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：20% (平年：20%)

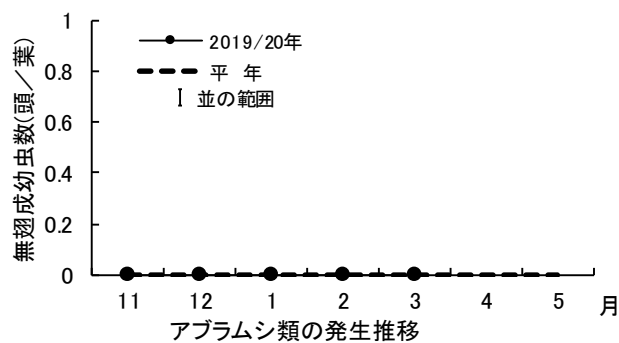
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

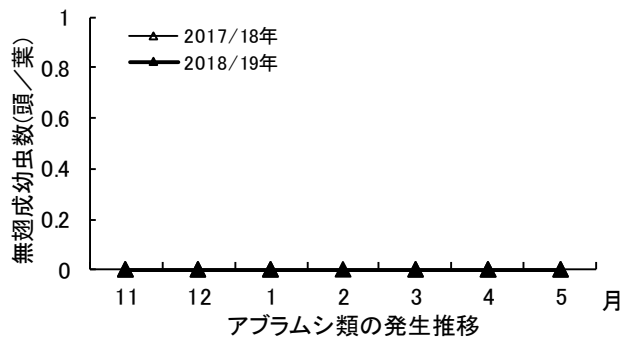
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	アブラムシ類		 <p>ワタアブラムシ</p>
予報	4 月の発生量 (平年比)	並	
	3 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	3 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生ほ場率：0.0% (平年：8.0%)

防除のポイント

- ・本種はウイルス病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。